

林外務大臣

都筑大使

第五〇号

英政府モ亦仏国提案ニ同意スヘキ旨同国委員ニ訓令スヘキ模様ナリ若シ右様相成ルトキハ当初ノ御訓令通ニテハ我邦ノミ孤立ノ地位ニ立ツノ虞アルヲ免レス折返シ電報三九ニ関シ電訓ヲ望ム

二五六 明治元年七月九日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戦闘開始ニ関スル仏国ノ提案ニ対スル英国ノ態度報告並右ニ対スル帝国ノ意嚮回訓方稟請ノ件
(一)

七月九日前一、一、三五 海牙着
十日前一、二〇 東京着

林外務大臣

都筑大使

第五二号

英国委員ハ只今本国政府ヨリ仏国ノ提案ニ同意シ得ヘキ旨訓令ニ接シタリ佑テ本官ハ此際該案ニ反対シ独リ帝国ノミ孤立ノ地位ニ立ツハ甚ク不得策ナリト信ス本件ニ関シ電訓ヲ請フ

第五節 戦時禁制品全廃案

二五八 明治元年六月十五日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戦時禁制品全廃案提議ノ場合ニ於ケル態度ニ付
請訓ノ件

六月十五日 海牙着
十六日 東京着

林外務大臣

都筑全権委員

第三号

戦時封鎖ノ制度ハ之ヲ存置スルモ戦時禁制品ヲ全廢セントスルノ議案英国ヨリ提出セラレントスルノ模様アリ右ハ全然新規ノ問題ニシテ之レニ関シテハ不日日本官ヨリ御訓令ヲ請フノ必要ヲ生スルコトアルベキニ依リ豫メ講究シ置カレ
ンコトヲ希望ス

二五九 明治元年六月六日

林外務大臣ヨリ
在蘭都筑大使宛(電報)

前件ニ関シ各国ノ意向取調方訓令ノ件

第六章 會議ノ進行、戦時禁制品全廃案 二五八 二五九 二六〇

註 電訓行違前掲二五四文書ノ通り、尙本件ハ九月七日總會ニテ可決

二五七 明治元年八月七日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戦闘開始ニ関スル仏国ノ提案修正ノ件並ニ右ニ
対スル列国ノ態度報告ノ件

八月十七日 前一、五〇 海牙着
十八日 前七、三〇 本省着

林外務大臣

都筑大使

第一〇一号

往電第二〇号ニ関シ

第二報告ノ戦闘開始ニ関スル仏案ハ調査委員ニ於テ審議ノ末第二項ヲ「戦争状態ノ成立ハ遲滞ナク中立ニ通知スヘシ
コノ通知ハ電報ニヨリナスコトヲ得戦争状態ハ通知受領後
ニ非サレハ中立国ニ対シ効力ヲ生セズ但シ中立国ニシテ実
際戦争状態ノ成立ヲ知リタルコト明白ナル場合ニ於テハ中
立国ハ通知ナキコトヲ以テ抗弁スル事ヲ得ズ」ト修正シ第
二委員会總會ノ投(票?)ニ付スル等右修正案ハ諸大國ノ
既ニ承認セルモノナルガ故ニ多分通過スベシ

註 往電二〇号ハ前掲二一四文書末項參看

六月十八日 後四時五十分着

和蘭ニ於テ

都筑大使

大 臣

第四号

貴電第三号ニ関シ戦時禁制品ノ制度ヲ全廢スルコトハ斬新且
重大ナル問題ニ付豫メ本件ニ対スル各国ノ意嚮ヲ承知シ度
キニ依リ右御取調ノ上御返電アリタシ

二六〇 明治元年六月八日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

前件ニ関シ回報ノ件

六月十八日 海牙着
十九日 東京着

林外務大臣

都筑全権委員

第四号

貴電第四号ニ関シ

他国ノ委員ハ本官ト同様ノ態度ヲ執リ即チ本件ハ全ク新規ノ問題ナルカ故ニ自国政府ニ請議スルニ先チ何等ノ意見ヲ述フルコトヲ得ストセリ本官ハ他国委員ノ態度今少シク判明セラルニテ確定的訓令ヲ請ハムトスル意見ナリシナリ本電信及往電第三号ハ目下ノ処蔵ニ秘密ニ附セラレンコトヲ請フ

二六一 明治卅年七月三十一日 秋山陸軍参事官ヨリ
山座政務局長宛

戰時禁制品制度問題ニ関スル意見送達ノ件

附屬書 右意見書

附記 右件ニ関スル海軍側所見覺書

(半切)

拜啓昨日會議ノ節戰時禁制品制度全廢ニ対スル理由ニ付小生附加イタン申述候ハ結局別紙ノ通りニ相成候ニ付御參考ノ為メ差出候間御一覽被下度奉願候 拜具

七月三十一日

秋山雅之介

山座老台 侍史

ハ不可ナキカ故ニ其品目ヲ制限セントノ意向ニハ賛成シテ妨ナシ

註 尙本省ニ届ケラレタル海軍側所見覺書附記ス

(附記)

英国ヨリ平和會議ニ提出ノ豫想アル戰時禁制品

全廢案ニ対スル海軍側所見覺書

(但シ戰時禁制品ナル辭ヲ *contraband goods*

ノ意ニ解釈セリ)

一、現今ノ通り戰時禁制品ヲ認ムルヲ以テ帝国ノ利益ト信スルニ依リ適當ナル手段ニテ遂行スルコトヲ得レバ全廢説ヲ成立セシメサルヲ可トス

戰時禁制品ノ全廢ヨリ生スル結果ハ帝国ニ取りテモ一利一害ヲ伴フコトハ疑ヲ容レズ然レトモ將來帝国力交戦者タル場合ヲ想像スルトキハ封鎖ノ制度アルモ帝国ハ常ニ之ヲ実施スルコトヲ期スヘカラサルヲ以テ敵ニ兵器彈藥其他軍需品ノ輸入セラルルコトハ今日ヨリモ尙ホ多大ナルニ至ルノ恐アリ故ニ大局ヨリ觀察シテ帝国ニ不利ニシテ現行制度維持ヲ以テ帝国ノ利益ト認メタリ

(附屬書)

戰時禁制品制度全廢問題ニ関スル秋山陸軍参事官ノ意見

別紙

第一、中立国ハ兵器彈藥等ヲ直接ニ敵軍ニ供給シ交戦者ハ戰鬪上非常ノ不利益ヲ蒙レルコトアルモ之ヲ防止スル能ハサルカ故ニ本案ハ中立国ノ商業ヲ過度ニ保護スルト共ニ交戦者ハ戰鬪上自国ノ安危ニ関スル場合ニ於テモ自国ノ權利ヲ行使スル能ハサルニ至ルヘシ

第二、中立国船舶ハ争フテ交戦軍ニ禁制品ヲ輸送供給シ戰鬪ノ慘害ヲ無益ニ増長スルニ至ルト共ニ戦争ヲ永續セシムルノ虞アルカ故ニ本案ハ結局人道ニ反シ延テ列国一般ノ不利益ナルヘシ

第三、中立国ハ中立ノ体面ヲ損スルコトナク戰鬪ニ直接必要ナル材料ヲ供給シテ交戦国ヲ援助スル手段容易トナリ其中立ハ有名無実トナリ得ヘキノミナラス中立国ヲシテ知ラス識ラス戦争ノ渦中ニ投スルニ至ラシムルノ恐れアリ

以上ノ理由ニ依リ戰時禁制品全廢ニハ同意シ難キモ戰時禁制品ノ制度ヲ適當ノ範圍ニ限局シテ中立国商業ヲ尊重スル

戰時禁制品全廢反対ノ理由トシテ提示スヘキモノ次ノ如シ

一、中立国民ガ物資ノ供給ヲナシ間接ニ交戦国ニ援助ヲ与フルノ行為アルモ妨ゲザルノ事実トナルヲ以テ不可ナリト認ム

交戦者ハ敵ヲ屈服セシムル為メ各種ノ手段ヲ用ユルコトヲ得ルモ戦争ニ關係ナキ第三国及其国民ノ權利ヲ尊重セサルヘカラス此ト同時ニ第三国及其ノ国民ハ戦争ニ干与セス兩交戦国ニ対シ不偏不党ノ態度ヲ維持スル義務アルヲ以テ平時ニ於ケル通商航海ノ自由ハ戦争開始ト共ニ自ラ制限セラルルニシテ戦争ニ必要ナル貨物ヲ交戦国ニ輸入スルコトハ交戦国ニ戦争上援助ヲ与フヘキ事実ナルヲ以テ前頭中立者ノ義務ニ反ス今戰時禁制品ノ制度ヲ全廢スルトキハ兵器彈藥其他戦争上必要ナル貨物ヲ自由ニ交戦国ニ輸入シテ之ニ援助ヲ与エ以テ名ハ中立者トシテ実ハ戦争行為ノ一部ヲ為スモ何等ノ檢束ヲ受ケサル事トナリ局外中立ハ殆ト意識ナキニ至ル

二、人道文明ノ上ヨリ見テ有害ナリ

戦争ハ人道ノ上ヨリ見テ甚ク悲ムヘキモノナリ然レトモ独立国家ノ存立上絶対ニ之ヲ避クルコト頗ル困難ナリ故ニ人道ノ上戦争ノ悪結果ヲ可成軽減セント欲セハ戦争期間ヲ出来得ル丈ク短縮スルコトヲ必要トス然ルニ戰時禁制品ノ制度ヲ全廢シテ中立国民カ兵器彈藥其他ノ軍需品ヲ自由ニ交戦国ニ輸入スルコトヲ許ストキハ交戦国ハ戦争上必要ナル資力ノ供給ニ依リテ戰鬪能力ヲ回復シ又ハ之ヲ増加スルコトヲ得其結果ハ戦争ノ終局ヲ遷延セシムルモノニシテ人道文明ニ及ス慘害モ徒テ大ナリ

二六二 明治四年七月三十一日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戰時禁制品廢止ニ關スル英國ノ提案採決ノ旨報告ノ件

七月三十一日 後八、一五 海牙着
八月一日 〇一、〇五 東京着

林外務大臣

都筑大使

右及報告候 敬具

明治四十年八月二日

在西 特命全權公使 稻垣滿次郎(印)

外務大臣子爵 林 董殿

追テ前文ノ趣都筑全權大使ヘハ電報ヲ以テ通報ニ及置候然ルニ其ノ後ノ報ニヨレバ委員会ニ於テ採決ノ際当国委員ハ棄權セリトノ事ニ付如何ナル事情ナルヤ問合セ候処實ハ訓令三時間計遲着ノタメニ棄權シタル次第ニテ本會議ニ於テハ勿論賛成ヲ表スベシトノ事ニ有之候

二六四 明治四年九月八日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戰時禁制品廢止ニ關スル英國ノ修正案報告ノ件

九月八日 後五、一〇 海牙着
九月九日 前一〇、〇〇 本省着

林外務大臣

都筑大使

第一二七号

英國委員ハ戰時禁制品問題ニ付宣言ノ形式ニテ提出スベキ條約案ヲ内セリ其要點左ノ通り

第八〇号

今卅一日第四委員会ニテ戰時禁制品全廢ニ關スル英國宣言ヲ票決ニ附セルニ反對者独米仏露モンテネグロノ五国ニ對シ賛成者英埃伊ポルトガル其他小国ヲ合セ二五国スベイン、トルコ等五国ハ票決ニ加ハラズ本官ハ英國委員ノ懇望ニヨリ右不成立ヲ見込ミ一時投票ヲ見合セ置ケリ猶ホ禁制品ニ關シ他国ノ提案アルユヘ諸案ヲ纏メ調査会ニ附セリ

二六三 明治四年八月二日

西国駐劄稻垣公使ヨリ
林外務大臣宛

戰時禁制品廢止案ニ對スル西国政府ノ意向報告ノ件

機密第二一号

九月十六日接受

八月二日当国外務大臣ト会见致シ海牙平和會議ニ於テ英國政府ノ提出ニ係ル戰時禁制品全廢案ニ對シテ西国政府ハ賛否棄權ノ三者中何レヲトルノ方針ナリヤヲ相尋候処西国政府ハ十分該問題ヲ研究シタル上此ニ賛成スル事ニ決セル旨答ラレ候

一、中立船若シクハ敵船ニ搭載セル加盟中立国民ニ屬スル載貨ハ戰時禁制品トシテ沒收スルコトヲ得ズ
二、加盟中立国旗ヲ掲グル船舶内ニアル一切ノ載貨ハ不可侵トス

二六五 明治四年九月二十六日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戰時禁制品全廢賛成國ニ對スル英國委員ノ希望報告ノ件

九月二十六日 後一〇、五〇 海牙着
九月二十七日 後一〇、二〇〇 本省着

林外務大臣

都筑大使

第一四四号

本日午後第三委員会總會ヲ開キ往電第一四二号水雷沈置ヲ議セルニ^ホ德國案通りニ決定セリ但シ独、露、瑞典、モンテネグロ、ノ四国ハ第一條第一項ヲ土耳其ハ第一條第三條及第六條ヲ留保セリ英國委員ハ第六條第二項トシテ第一條ノ規定ニ適応セサル水雷ハ繫維ナキモノハ本條約批准後(七年)又繫維アルモノハ三年後ハ其使用ヲ禁ストノ案ヲ提出シ採決セルニ賛成國十七反對國九「アブステイン」セル

国十ナリシカ議長ハ其絶对多数ヲ得サルコトヲ宣言シ遂ニ消滅セリ第一委員 会モ引統キ開会シ往電第一四三号戰時禁制品封鎖及郵便信書保護ノ報告ヲ議事ニ付シ調査委員報告通り通過セリ但シ露国ハ郵便信書保護規定案中第一條ノ第二項ニ対シ留保セリ(續ク)

九月二十六日 後一〇、五〇 海牙發
 九月二十七日 後九、二五 本省着

第一四四号ニ
 續キ

又既報ノ通り英国委員ハ其戰時禁制品全廢ノ提議ニ対シニ六ヶ国ノ賛成ヲ得タル勢ニ乗シ昨日賛成諸国ノ委員ヲ其旅館ニ招キ賛成国間ニテ禁制品全廢ノ條約ヲ訂結セン事ヲ試ミタルニ他国ノ委員ハ「コンフハレンス」以外ニ於テ別ニ條約ヲ訂結スルノ権能ヲ有セサルヲ理由トシ之ヲ拒ミタル由ニ伝ヘラル

第六節 軍備制限宣言案

二六六 明治四年七月七日 在海牙都筑大使ヨリ
 林外務大臣宛(電報)

英国ノ軍備制限宣言案ニ関シ報告ノ件
 七月十七日 後四、四〇 海牙發
 七月十八日 後七、一〇〇 本省着

林外務大臣宛

都筑大使

第六六号ノ二

二、本官ノ内密ニ英国委員ヨリ聞得タル所ニヨレハ英国ハ會議ノ終リニ左ノ如キ減兵案ヲ提出スルナルヘシ本案ニハ多分独逸モ同意スヘシト信セラル、ガ故ニ全会一致ノ表決ヲ得ルナルヘシト思考ス

本會議ハ一千八百九十九年ノ會議ニヨリテ可決セラレタル軍事費制限ニ関スル決議ヲ確認ス而シテ該軍事費ガ同年以來殆ント総テノ国家ニ於テ著シキ増加ヲ来シタルニ鑑ミ本問題ハ未曾有ノ緊急事項ニシテ各国政府力之ノ研究ニ再ヒ着手センコトヲ希望スル旨ヲ宣言ス

二六七 明治四年七月九日 在海牙都筑大使ヨリ
 林外務大臣宛(電報)

英国軍備制限宣言案報告中訂正ノ件
 七月十九日 後六、二五 海牙發
 七月二十日 後一、二〇〇 東京着

林外務大臣宛

都筑大使

第七〇号

往電第六六号ニ関シテ

英国減兵案中(未曾有ノ緊急事項ニシテ)トアルハ(旧ニ比シ一層緊急ノ度ヲ増シタリ)トノ意味ニツキ御承知ヲ乞フ

二六八 明治四年七月十二日 在海牙都筑大使ヨリ
 林外務大臣宛(電報)

英国軍備制限宣言案ニ対スル各国ノ態度報告ノ件

七月二十一日 後五、一〇〇 海牙發
 七月二十二日 前九、四〇〇 本省着